

報道資料

報道機関各位

2020 年 1 月 15 日

学校法人関西医科大学

学校法人常翔学園

関西医科大学が摂南大学で出張講義 AYA 世代に向けた“がん”の啓発活動として両大学が連携

■本件リリースのポイント

- ・ 摂南大薬学部 4 年生 200 名に向けて関西医大の医師 2 名が講義
- ・ がんへの理解を深め、妊よう性温存療法を知ってもらうために実施
- ・ 予後不良が多い AYA 世代のがんの早期発見、早期治療を目指す

■概要

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）附属病院（同市 病院長・澤田敏）がんセンター（センター長・蔦幸治）は、学校法人常翔学園（大阪市旭区 理事長・久禮哲郎）摂南大学（大阪府寝屋川市 学長・荻田喜代一）枚方キャンパス講堂において、同大薬学部（学部長・河野武幸）4 年生 200 名を対象に、2020 年 1 月 22 日（水）13 時 20 分から“AYA 世代のがん”をテーマとした出張講義を行います。

関西医科大学附属病院がんセンター（以下「がんセンター」）は、これまでも大阪府や枚方市の教育事業に協力し、中学生及び学校教員に向けたがん教育に取り組んできました。今回は、AYA 世代のがんについてさらなる早期発見・早期治療を目指し、教育活動の対象を大学生に広げた情報発信を模索していたところ、学校法人常翔学園との協力が実現。同法人傘下の摂南大学薬学部にて出張講義を実施することとなりました。当日はがんセンターの医師が 2 名登壇し、がんの最新情報や AYA 世代に関係が深い妊よう性温存療法について講義を行います。

なお、同センターは今後もさらなるがん教育活動を推進するため、教育機関に限らず幅広い若年・現役世代を対象とした講義を検討しています。

■関西医科大学附属病院がんセンター「摂南大学出張講義」概要

対 象	摂南大学薬学部 4 年生 200 名
会 場	摂南大学枚方キャンパス 3 号館 1 階 メディックスホール
講義日時	2020 年 1 月 22 日（水）13：20～14：50
テ ー マ	がん
講 義	■第 1 部 13：20～ 「がんについて学ぶ ～予防・最新治療・就労支援等～」 関西医科大学附属病院放射線科 中村聡明准教授
	■第 2 部 14：05～ 「AYA 世代のがんと妊よう性温存療法」 関西医科大学附属病院産科・婦人科 岡田英孝教授

【本件リリースに関する取材のお問合せ先】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田）

〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

別 添 資 料

■出張講義開催の背景

近年、主に 15 歳から 39 歳前後の人たちを意味する AYA (Adolescent and Young Adult) 世代の、“がん”が注目を集めるようになりました。ただ、AYA 世代のがんは若さゆえに進行が早く予後不良となるケースが多いこと、進学・就職・結婚・妊娠・出産などライフステージが大きく変化する時期に当たるため医療ニーズが変化していくこと、多感な年代で精神的なストレスや将来不安が大きくなるためがんの治療以外のケアが重要になることなど、様々な課題が挙げられています。また、特に女性については妊娠できる可能性を残すこと（妊よう性温存）が、自分らしい生き方につながる選択肢のひとつとして大きな要素です。

ところが、思春期の子どもや若い人たちは自分の身体や健康に対する意識が低かったり学業や仕事に忙殺されたりして、自身の身体に不調が現れても見過ごしてしまい、がんが進行して手の施しようがない状態にまで放置する症例が多く見られます。こうした状況を改善するため厚生労働省も対策に乗り出し、包括的・継続的な相談・支援体制の構築や医療従事者の教育、関係者への情報発信などの、政策提言を行いました※。

これを受けてがんセンターは、若い人にも自分の身体に興味を持ってもらうことでがんだけでなく重大な疾患を早めに見つけ、早期に治療を開始できる環境を作り出すため、若い人への啓発活動を推進していました。

※出典・引用 厚生労働省「AYA 世代のがん対策に関する政策提言」P.8

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000138588.pdf>

■AYA 世代のがん診療の特徴

そもそも AYA 世代のがんは症例が少ないものもあり、有効な治療法の確立が遅れがちです。また、高齢者に比べると細胞分裂や免疫力が活発であるが故に進行が早かったり、日常生活が忙しくライフイベント（人生の節目となる変化）が続くため医療機関の受診・がんの発見が遅れがちだったり、という特徴があります。また、がんが発見された場合学校や職場へ通えなくなったり、妊娠できなくなったりと将来を大きく左右する負の要素、不安を強くさせる要素が多いのも特徴です。加えて、18 歳未満で発症した患者さんには「小児慢性特定疾患」制度が、40 歳以降の場合は介護保険制度があり、公的な費用補助制度が整備されていますが、そうでない若年層のがんには制度そのものがなく、経済的負担も大きくなりがちです。

しかし、そうした状況を踏まえて社会は少しずつ変化していき、きめ細やかなサポートや医療の進歩、妊よう性温存療法の登場など、AYA 世代のがんを取り巻く環境は着実に改善していているといえます。

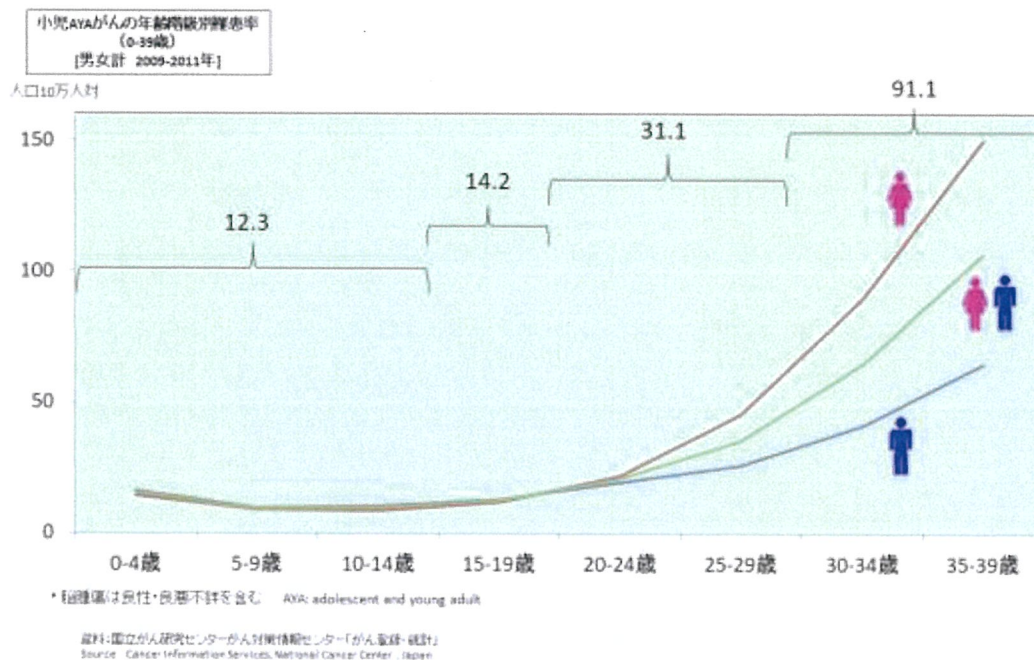
【本件リリースに関する取材のお問合せ先】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田）

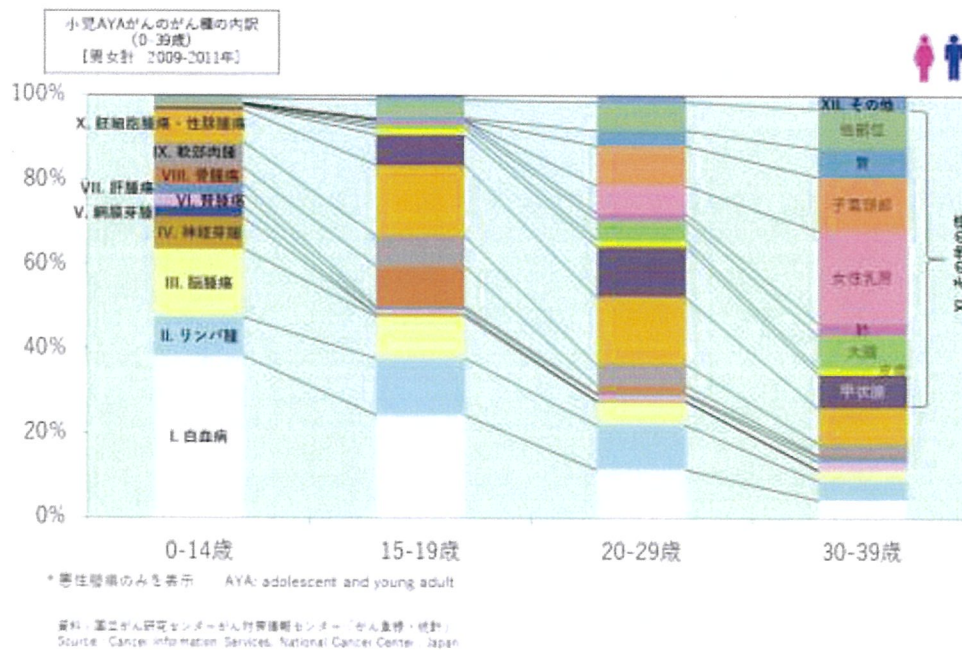
〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

■小児・AYA 世代のがんの罹患率※



■小児 AYA がんのがん種の内訳※



※引用・出典 国立がん研究センター がん情報サービス
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/child_aya.html

【本件リリースに関する取材のお問合せ先】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田）

〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

■本件出張講義に関するお問い合わせ先

学校法人関西医科大学

広報戦略室 課長補佐 岡田一充

TEL：072-804-2128 E-mail：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

学校法人常翔学園摂南大学

枚方事務室 薬学部事務室長 山本誠

TEL：072-866-3101 E-mail：SETSUNAN.Ybu@josho.ac.jp

【本件リリースに関する取材のお問合せ先】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田）

〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp